

普及活動情勢報告（令和元年5月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

出荷の最盛期に向けて ～ミョウガ目慣らし会の開催～



目慣らし会の様子

4月16～23日にかけて、JA土佐くろしお管内のミョウガ生産者203名を対象に、目慣らし会が開催されました。

今作は暖冬の影響もあり、促成作型の生育が順調に進んでいます。これから始まる本格的な収穫にそなえ、出荷規格や作業上の注意点（異物混入の防止など）を参加者全員で確認し合いました。

農業改良普及課からは、春先の栽培管理のポイントと産地パワーアップ事業について説明を行いました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と協力してミョウガの安定生産と増収のための支援を行っていきます。

大野見米の更なるブランド化を目指して！ ～おおのみエコロジーファーマーズ総会の開催～



総会の様子

4月26日、おおのみエコロジーファーマーズ（以下、おおのみE F）の平成31年度総会が開催されました。

おおのみE Fでは、これまでの取り組みの成果を客観的に評価できる全国的なコンテストでの入賞を目指し、栽培管理暦の見直しと先進事例の視察等を行うこととしました。

また、7年目となる高知県立大学サークルCOME☆R I S Hとの連携も継続し、町内外・県内外でのブランド化と中土佐町の農業全体のPRに向けて取り組むことも全員で確認しました。

農業改良普及課では、おおのみE Fの活動を支援し、大野見米の更なるおいしさ向上とブランド化を支援していきます。

収量と品質の向上を目指して ～インゲン目慣らし会の開催～



目慣らし会の様子

4月24日、26日、JA土佐くろしおの出荷場で、インゲンの目慣らし会が開催され、生産者19人が参加しました。JA販売課から出荷物の規格や出荷時の注意点について説明があり、生産者は出荷物を見ながら、確認していました。

営農指導課からは、今後の病虫害対策について、農業改良普及課からは、産地パワーアップ事業を紹介し、環境測定器の活用方法や炭酸ガス施用装置の導入事例について情報提供しました。

生産者は、説明について質問したり、今作について生産者同士で情報交換を行っていました。

農業改良普及課は今後も関係機関と連携して、インゲンの収量と品質の向上を目指して支援を行っていきます。

安定したナスの生産に向けて ～津野山地域で米ナス・小ナスの現地検討会を実施～



ヘッドルーペで害虫を
観察してもらう

5月14日に小ナス現地検討会を、15日に米ナス現地検討会をそれぞれ開催し、併せて18名の生産者が参加しました。

J Aは基本的な栽培管理、農業改良普及課は樹勢管理の仕方を説明しました。今年は春先までは暖かかったのですが、定植が始まった3月下旬から夜温の低い日が続いており、生育は少し遅れ気味です。三番花が開花するまでは樹作りに専念するよう助言しました。また、両部会の会場となったハウスで害虫が見えたことから、ヘッドルーペで生産者自身が観察する場を設けました。

農業改良普及課は、今後も現地巡回などを通じて生産振興を支援します。

かん水と病害の予防は何よりも大事！ ～土佐甘とう部会現地検討会を開催～



現地検討会の様子

5月10日、JA高知県高西地区津野山地域土佐甘とう部会で、現地検討会を開催し、16戸の生産者が参加しました。

今回の現地検討会では、会場となった生産者が行っている栽培管理事例の発表を生産者自身が行い、J Aから初期生育管理について、農業改良普及課からかん水と病害対策の基礎について講習し、現地の栽培状況を確認しました。農家からは「p Fメータを使ってみて、かん水方法を改善できた」「うどんこ病の対策を再考したい」という感想や、「p Fメータの使い方をより詳しく教えて欲しい」といった質問がありました。

農業改良普及課では、今後も部会の活動を支援し、土佐甘とうの収量・品質の向上に努めていきます。

農業現場での『カイゼン』の取り組み2年目に ～ 花き栽培経営体でのコンサル現地調査 ～



選花作業の状況確認

5月21日、管内の花き栽培経営体の作業場で『カイゼン』コンサルタントによる今年度1回目の現地調査が行われました。当日はモデル経営体、コンサル、環境農業推進課、農業改良普及課他で15名が参加しました。今回はコンサルから助言を受けた『カイゼン』の手法を用いて選花作業の効率化を図るため実践している、3人チームでの分業化作業の診断を受けました。

現地調査の後、意見交換では、コンサルから作業者の動き、モノの動きについて検討するよう助言を受けました。

農業改良普及課は、今後もモデル経営体の『カイゼン』に向けて提案を通じてカイゼン支援をしていきます。